

革命の旗

共産主義者同盟
(革命の旗)
中央機関紙

第45、46 合併号
1981.8.20
6頁 200円
(毎月5日、20日発行)
発行人 北沢 晋
発行所 赤流社
電話 (03)787-7699
東京都世田谷区千歳
郵便局 私書箱4号
振替 (東京)7-86947
定期購読料(22回分)
手渡し3000円(送料共)
開封3500円(送料共)
密封4000円()

世界史的激動を迎え撃つ 社共にかわる単一党 形成に前進しよう

共産主義者同盟 (革命の旗)

政治路線上の諸問題

八〇年代は、国際的に帝国主義の相対的安定期が終り、アフガン侵攻にみられるソ連の伸長、それに対抗する米帝レーガンのまき返しによって覇権争奪が強まっている。イラン革命、ニカラグア革命、ポーランドの労働者の闘いの前進や、第三世界人民のソ連の覇権争奪に対抗する民族解放闘争が高揚し、戦争と革命の時代の基調を形づくっている。こうしたなかで日帝は、日米安保体制の強化をテコにおし進めている。これに対して労働者階級人民の戦争と反動、差別、搾取・収奪への闘いが拡大しつつある。

こうして国際・国内情勢の激成は、党と労働者階級の任務をますます明確なものとしている。われわれは、一九七九年の九月に統一革命の旗幟を戦取し、以来、二年余の党建設をおし進め、さきやかではあれ社共にかわる単一党建設の着実な第一歩を築きあげてきた。このような経験を生かして、労働者階級の革命的労働者階級建設の熱望に応え、更に一歩を踏みだしていく決意である。われわれは、単一党建設の事業を第二次ブンドの急進民主主義を清算し、マルクス・レーニン主義の獲得へと発展させた第二次ブンド派との統合をそのための現実的一步とし、その成功のもとに、潮流を越えた団結をも射程に入れていく積極性をつくりだすべきであると思う。かつてわれわれが掲げた「第二次ブンドの結成」とは、こうした内容をさしたものとあり、第二次ブンド系諸派が急進民主主義を温存したままに主張する「第二次ブンドの再建」とは異なるものである。一線を画したものである。これはいうまでもない。しかしながら「第二次ブンドの結成」というわれわれの主張がさまざまの意味に受けとられることを避

けるために、労働者階級の党として自らを鍛えあげ、修正主義・現代修正主義の社共を代わるマルクス・レーニン主義の単一の全国党の創建へ」と新たに定式化しなければならぬ。そのうでわれわれの単一党建設のためになすべきことは、第二次ブンドの主要素であった急進民主主義、反スタ・トロツキズムを清算すると同時に、第二次ブンドの積極面を継承し発展させ豊富化、全体化することを中心をおくべきであると思う。この積極面とは、戦後帝国主義世界体制のなかで生みだされた民族解放闘争の高揚の世界的意義

単一の労働者階級の創建を共同事業としておしすすめることを、全国の労働者と共産主義者、とりわけ急進民主主義を克服し、マルクス・レーニン主義を獲得した分派によびかけていきたい。一時代の中核を担うとともに

共産主義諸派の統合を 闘いとるために

闘いとるために

をつかみとり、帝国主義本国労働者階級のそれとの連帯を反帝国際主義の内実を明らかにしたことである。すなわち、このことを真に日本社会主義革命の路線として闘いとのか、それとも「観念的な世界」へと閉じこめてしまおうのかというところに、今日の日本革命をめぐる政治路線上の分岐が存在する。現在の

り、世界変革の主力軍としての位置をつくりだしている。それ故、この世界史的激動に対し、帝国主義本国のわれわれプロレタリア階級は、国際プロレタリア階級の一部隊として、反帝・反社帝の態度のもと被抑圧民族と固く団結し、社会主義革命の戦取へと奮闘することが必要である。

この方法を確立しようならば、われわれを含めた統合の成功は、党建設の現実的な方法を定着させたといえる。そして統合を推しすすめるためには、思想・政治路線の一致を綱領・規約として固め、戦術・組織の一致・実践的な教訓をつきあわせ理論化することという方法を確立することが重要である。

綱領・組織・戦術の 一致について

われわれの二年余の党建設の前進は、統合に対する確信と同時に、教訓化すべき多くの経験を生みだした。そのうちで発展的要素を二つあげるとすれば、次の点である。

この社会主義と労働運動の結合をおしすすめるためには、資本主義批判を現代修正主義者や反スタ・トロツキズムの「批判」

この方法を確立しようならば、われわれを含めた統合の成功は、党建設の現実的な方法を定着させたといえる。そして統合を推しすすめるためには、思想・政治路線の一致を綱領・規約として固め、戦術・組織の一致・実践的な教訓をつきあわせ理論化することという方法を確立することが重要である。

この方法を確立しようならば、われわれを含めた統合の成功は、党建設の現実的な方法を定着させたといえる。そして統合を推しすすめるためには、思想・政治路線の一致を綱領・規約として固め、戦術・組織の一致・実践的な教訓をつきあわせ理論化することという方法を確立することが重要である。

この方法を確立しようならば、われわれを含めた統合の成功は、党建設の現実的な方法を定着させたといえる。そして統合を推しすすめるためには、思想・政治路線の一致を綱領・規約として固め、戦術・組織の一致・実践的な教訓をつきあわせ理論化することという方法を確立することが重要である。

この方法を確立しようならば、われわれを含めた統合の成功は、党建設の現実的な方法を定着させたといえる。そして統合を推しすすめるためには、思想・政治路線の一致を綱領・規約として固め、戦術・組織の一致・実践的な教訓をつきあわせ理論化することという方法を確立することが重要である。

的緊張緩和)は米帝から二流帝国主義諸国や被圧迫国を切りはなすことを目的としたものに他ならない。

この現代世界をおおっている帝国主義戦争の危機をとりぞくためには、とりわけソ米超大国・二流帝国主義諸国内のプロレタリア階級が革命的祖國敗北主義の態度をとるべきである。自国帝国主義打倒へつき進まねばならない。なによりも、われわれは米帝をはじめとした西側帝国主義やソ連社会帝国主義の支配に反対し、現代世界の変革力となつていく被抑圧民族と固く連帯し闘い抜くことが問われている。

今日、民族独立を闘いつつた国々で、新植民地支配打破の闘いが、プロレタリアと農民等を中心として発展している。とくに、米帝のベトナムでの敗北と世界支配からの一定の後退以降、多くの被圧迫国はこれらの闘争に押しあげられ、帝国主義に対する経済的平等や覇権主義に反対する行動を強めている。しかし、これら反帝・反植・反覇権の闘いは、米および西欧・日諸帝国主義に対するのみならず、ソ連帝に対しても向けられていることが注目される。

だが、そうであればあるほどソ米を中心とした帝国主義世界大戦の危機は紆余曲折をほらみながらも、自己の権益の防衛と拡大、世界支配をめざしながら不可避に増大する。それ故、帝国主義諸国のプロレタリア階級に問われることは、民族解放闘争と連帯する国際主義の行動を強め、侵略反革命を打ち砕く、また帝国主義諸国を国内戦に転化する準備をしっかりと整えなければならない。

今回は、二流帝国主義とくに英仏の体制的危機の深まりと階級闘争の激化と、ポーランド、イランの階級闘争をとりだし、以上の諸任務のための素材とした。今回はアジアの民族解放闘争と日本プロレタリア階級の任務について明らかにする予定である。

フランス

帝国主義の延命を画策する社民政権



6月10日、ミットラン当選決定後、パリの人々はバスチユ広場に集まり、左翼政権樹立を祝った。

二回選挙で、社会党は二八七議席(前回一一三)を獲得し、単独過半数をこえる大勝利を戦取した。

何故、社会党は大勝利を戦取したのか。理由の第一は、フランス経済の危機と労働者・労働大衆の不満・怒りである。一七・二五%の物価上昇に端を発し、社会党に決定的な水をあげられ、四四議席(前回八六)へと半減した。

社共帝国主義者の役割

五月十一日の大統領選で、社会党のミットランは五二%の得票を獲得し、現職大統領のジスカールデスタンに四%の差をつけ、大統領選に当選した。

この結果、六月四日、ミットランを大統領とし、モーロワを首相とする社共政権に、共産党四人が閣僚参加する社・共連合政権が誕生した。

深まるソ米 国際階級

二面下段からつづく
まざるをえず、それはホメイニへの公然たる批判と闘争を組織するとともに、武装左翼勢力に完全に依拠するよりその方策はなかつたのである。ホメイニはくり返しバニナドルが反イスラーム勢力を左翼勢力との結びつきを断つことを要求してきた。これは言いかえれば、イラン二月革命の勝利以降も決して解決しえなかつた二つの政治勢力が今再び激烈な闘争へと向かわざるえないイランの情勢を特徴づけたものである。

革命の前進か 反動的後退か

そして、このことを加速させたのはIRPのいう「イスラーム経済の建設」であった。三〇%をこえるインフレ、三〇〇万失業者(実に人口の二割)として百五〇万といわれるイラク戦争の難民、また今日、イラン経済は七七年に比してその約七割におちこんでおり、食糧の輸入も六〇万トンも増加させざるをえない危機的状況を示している。

社共連合政権に未来はない

六月三日、フランス共産党は社会党との政策協定に合意し、四閣僚の閣内閣が決定した。合意点の要旨は、(1)国有化の範囲と時期は社会党提案に従う、(2)ソ連のSS20、米国のパーシングII、西誘導ミサイルの削減、(3)フランスの欧州共同体(E.C)参加を積極的に行う、(4)アガニスタンからのソ連軍の撤退、(5)ポーランドの民主化支持等である。

これは、共産党の社会党への全面屈服、連ソ政策の放棄である。

共産党の閣内閣は、共産系労働組合CGTを連合政権の下に隷属させ、ミットラン・モーロワ社共政権があたかも労働者政府であるかのように、幻想を拡大する反動的役割を果たすものである。

以上からして、フランス階級闘争の新たな爆発・発展は不可避である。労働者階級は社共連合政権に経済危機と帝国主義間戦争の危機を解決しえる能力がないことを、実際の体験を通じて知り、資本の収奪と生産手段を独占するプロレタリア階級独裁樹立へと階級闘争を発展させていくであろう。それは全ヨーロッパの革命闘争を激化させるをええい。

西側帝国主義の アキレスけん



撃破の車を火えんピンで攻撃する青年たち — 7月28日リバプールで

英帝国主義の体制的危機の深化のなかで、矛盾は下層労働者とアラブ・アフリカからの移民労働者の肩へ重くのしかかっている。彼らは、リバプールをはじめとする多くの都市で暴動をおこし、現政権への反撃を開始している。事態は「暴徒鎮圧」の名の下に強権的弾圧を加える警察との闘いの中で死者を出すまでに至っている。

イギリス

寄生化・腐朽性の典型
八月一日、北アイルランド共和国軍の指導者の一人がハンストによって死亡し、ついに七人目の戦士が獄死攻撃によってたおれた。

北アイルランド人民の広範な抵抗闘争は、市街戦をふくむ様々な戦術で闘われ、指導部の獄中自立候補に多くの支持が集中するように、この運動は広さと深さをもって進行している。

これに対して英帝国主義は、北アイルランドを「最後の植民地」としてしばしば、宗教上の差異を理由にあらゆる差別・抑圧・収奪を行ない、北アイルランド人民の「自治権の承認」の要求を、多くのイギリス労働者・人民が支持するにもかかわらず、暴力的におしつぶすに努めている。

七〇年代の世界的な規模でのインフレ・低成長は、西側諸国に大きな打撃を与えた。英国では時の労働党政権が、労働運動の高揚に対して対応力をもちえず、所得政策の導入による実質賃金の切り下げによって乗っ取りを失ったことになった。七七年に保守党サッチャー政権が誕生した。

暴発する下層労働者の不満
サッチャー政権は、英労働者の永年の闘いによって積みあげられた成果を奪いとるため、ピケットの制限、クロースド・シヨップの制限、山猫ストの規制によって正面攻撃にうつり出るとともに、他方英労働者の「右派分裂をはかり、ジェンキンス(元E.C委員長)の下での社会民主党政権の結成をテコとして、労働運動の体制内化をはからんとしている。

君主制のもつ階級的役割
このような階級対立を緩和し、「国民の統一」をはからんと演出されたのが、「世紀の祭典」英皇太子チャールズとダイアナの結婚である。これは、かつて六〇年代の安楽の後で、皇太子結婚が演出されたのとまったく同じものだ。ブルジョア階級にとつて「立憲君主制のブルジョア議院制度」の政体の下では、各国の歴史の上の連いはあはれ、成婚も階級支配の道具ではないのである。そしてこれも、必ずしもうまくいかなかった。

英皇太子成婚の世界的報道II キャンペーンのなかで演出されたように「英国の威信」は、IRAの死を恐れぬ獄中闘争と黒人労働者の都市暴動によって色あせてしまった。

いまイギリスでは、階級深部で労働者階級の闘いが準備されており、新たな激突戦にむかって着実に前進しているのである。



フランス労働者階級の闘いは成熟しつつある — CGTのメーデーデモ

彼らは経済に対する政府の過剰介入を批判し、インフレの進行に対して金融引き締め・高金利政策をうちだした。そして財政再建の名のもとに教育・福祉関係の支出が大幅に削減され、従来倒産企業をひきうけていた国有企業部門は、民間移管が切

日共統一労働懇は本当に右翼「統一」と対決するのか

ある争議組合の闘いから

労働戦線の右翼の再編の動きは、戦争と革命の情勢のつまじりななかで日共統一労働懇は「労働運動の右傾化反対」をとる。このことにより、あたかも自ら、左であるかのような幻想を労働者大衆にふりまいている。こうした動きはもはや天上の問題にとどまらず、地域・職場での闘争指導をめぐる具体的対応に如実にあらわれているのが現状である。だが、それは資本の攻撃が強まれば強まるほど、そしてそれに対する労働者階級の怒りが噴出すればするほど彼ら労働貴族どもはもとより、統一労働

懇の政治的・階級的性格がより明確に労働者大衆の前に暴露されるということを意味する。

現代修正主義の指導思想

この間、X地区において資本のなすりかまわぬ「組合つぶし」・不当解雇と闘う労働者の争議をめぐる指導方針のなかにそれら日共の腐敗が、にわかに見出し出ている。

運動一般に加盟する〇〇分会は三年前に結成された。しかし二〇〇名ちかくの労働者を雇用し、業績の上でもX地区内随

一の〇〇資本は、分会結成当初より矢つぎばやに「分会解体攻撃をしかけ、また第二組合を結成させ、同盟に加盟させ、激しい差別をくりかえしてきた。とくに、分会中心メンバーであったNさんへの配転・解雇、さらにはNさんへの刑事事件デッチあげ・解雇という攻撃は、まさに〇〇分会のみならず地域で闘う仲間に対する挑戦であつた。このような攻撃のなかで分会脱退者を出さずという後退を強いられた。当該労働者の「不当解雇撤回・原職復帰」の原則的要求を軸に不屈の闘いがとく

たつて、零細企業下の未組織のなかで革命運動の工作にあつてはいる同志達から意見を出してもらった。

未組織労働者は、日本資本主義の「高度成長」のなかでも低賃金・無権利状態にさらされ、独占資本・資本家達のおくなき利潤追求の対象とされてきた。正確ではないが、それは日本労働運動のなかで、「第三世界」とでもいえる位置である。しかし、労働者階級の内で最大多数のこの労働者の決起は、また労働運動の真の階級の再生と固く結びつくものと確信する。それ故、大工場下の労働者の闘いと結合し、独占包圍・打倒へ突きすすむ戦術的環である。

(編集部)

今日、未組織労働者の組織化は重要な課題としてあります。同盟J.C. 総評民同の労働貴族による労働運動の右翼の統一の動きのなかで、真に階級的に労働運動を押し進めるには既成労働組合の中で指導権を奪取すると同時に、中小未組織労働者を組織することが必要です。

この東京東部の地においても社会主義と労働運動の結合の志を持つ労働者が地域合同労働組に入って活動しています。私もそのメンバーです。二年前、ここへ来た時、随分遠くへ来たものかと思いましたが、林立する数えきれないくらいの中企業の中の一ひつが、私の働く工場での労働者はパートも含め三十名ぐらいて、時計の部品を作っています。平均勤続年数四・五年平均賃金十六万五千元、労働者の出入は激しいです。労働者の雰囲気は、現状に不満を持っているけれども、あえて事を構えずという感じです。

それでは、私がS工場に派遣されたからいつかのエピソードを話します。

その一、配置転換と主任昇進問題。今年三月、私は機械から検査へ移ることを職制より命じられました。私は、はじめは機械工として働くことに固執しましたが、私自身機械に自信がなかったため検査に移ることを承諾しました。しかし、検査に移った時、主任という役が私に付けられていました。私は、主任という地位は職場作業上まじいと思ふことになりました。すると



「統一」を背景としてみれば、その容姿は浮きぼりにされるだろう。すなわち、右翼の「統一」の進行のなかで、地区における影響力拡大が急務になっている。彼らにとり、同盟系第一組合との協力が重要であり、それが当該労働者・名の孤立化を結果するものであつても何ら変わるまいのである。ここに「和解交渉」・闘争緩和(退却)へと導かんとする日共と「第二組合を刺激したくない」社会党との間に当該の要求を切り捨てても闘争緩和が得策という政治的・組織的一致の存在することが明確になる。

社長より「一度決めたことだから引き下げるわけにはいかない、当面は引き下げるが将来はやつてもらう」と言われ、私もそれでいいやと思ひ納得しました。このことを組合(地域合同労働組)に一人でも加入できるようにと報告したところ、多くの批判を受けました。「なぜ配置転換問題。最近になって、景気の関係という理由でパートの時間短縮が行なわれました。このことは、パート労働者を企業の本全弁として利用し、労働者の間に差別と分断を持ちこむものです。他にも、職制とベツタリの奴とケンカもしました。」

未組織の組織化といつてもどういうふうにして組織できるのか。労働者のシャイなハートに火をつけるにはどうしたらいいか。確かな傾向と対策があるわけではないので、試行錯誤の毎日です。初めは惨々な目にあつた。二度目はオトシエをつける、三度目は余裕というような感じだ。

最近になって、計画を立ててそれに沿って活動するようになりました。はじめは、飲み会やレクリエーションなどを計画し、その中で労働者の考えや要求を引き出すという方法です。それは、以前の私の場当りの活動傾向を反省してのことです。いきなり「政治」を持ちこんでも鼻で笑われるだけでした。

今後、社会主義と労働運動の結合をめざして、しなやかにしたたかにがんばりたいと思ひます。

(N)

職場工作の経験から...

活動は「しなやかにしたたかに！」

そのものをことわらなかつたのか。配置転換そのものが資本による攻撃じゃないか。配置転換そのものをことわらなかつた。君自身が闘わなくて労働者が闘うのか。私は頭が血がのぼりました。「ことわれないから、ことわれないんだ」と言いました。お説教はゴメンだという気持ちでした。そして、定期昇給の個人交渉(S工場は昇給は個人交渉)

未組織の仲間と団結し 正規の攻囲強めよう!

六月X日、〇〇工場分会は七年三月に第一回要求提出から二年余にわたって粘り強く闘い続けてきた退職金規程の成立を待ちこがれた。

この退職金制度確立の闘いは、今年八〇歳になる分会員Aさんが、身体上の理由により退職せざるを得なくなった際に、最賃制スレスレの低賃金で長期間酷使され、その間に凄惨な労災事故に会いながらも何の補償もされなかつたことなどへの正当な見返りを資本に要求したことから始まった。分会は、このAさんの要求を支持し、その実現をめざすとともに退職金制度の

確立を追求していった。それは同時に、資本が分会の闘争圧殺の常套手段として持ち出す「赤字経営放棄」倒産のどの喝と対決していく物質的基盤(労働債権の確保など)を整えていくことを目的としていた。

分会は昨年九月頃から闘いを本格化させ、さまざまな機会をとらえては精神的に団交を追求し、「退職金制度を確立する方向で検討する」という資本の言葉を引き出した。これに対し資本は、「赤字経営を打開し、従業員の収入アップをはかるためにも、請負制の導入を検討したい。」と実質的には「労働強化

を迫る内容にすぎないものを、労働者に一人立ちの幻想を抱かせるように持ちこみ、団結の切り崩しをはかつてきた。そして、今年三月には建築業者に工場敷地の測量をさせ、近日中に近くを地下鉄が開通するのに合わせて、マンション経営に移行する目論みがあることをも示した。さらに、年度がわりにともなつて親族を会社に引き入れ、「赤字経営」の打開をはかるどころか仕事もさせず、露骨に会社を喰ひものにして資本の取りこみを画策している。そして、退職金制度の作成に対しては、定年制の導入を持ち出し、闘い

擬装倒産攻撃—生活不安をのりこえる団結の力

退職金闘争の思想と戦術

退職かを迫る内容にすぎないものを、労働者に一人立ちの幻想を抱かせるように持ちこみ、団結の切り崩しをはかつてきた。そして、今年三月には建築業者に工場敷地の測量をさせ、近日中に近くを地下鉄が開通するのに合わせて、マンション経営に移行する目論みがあることをも示した。さらに、年度がわりにともなつて親族を会社に引き入れ、「赤字経営」の打開をはかるどころか仕事もさせず、露骨に会社を喰ひものにして資本の取りこみを画策している。そして、退職金制度の作成に対しては、定年制の導入を持ち出し、闘い

われわれの反撃と戦術

ここで定年制問題をめぐり、方針転換をした背景をのべておこう。

当初、分会が提出した退職金規定(案)には、もちろん定年制

寄稿

労働戦線の右翼再編を粉砕する前衛へ

高幣真公

われわれは、結党の主旨を共にする単一党創建に示し活動してきた。今日はこの事業の達成が強く求められているときではない。

はじめに

労働戦線の右翼統一や日米安保体制の再編強化に反対する主体の立派な、とくに党派の指導力の弱体がつくづく考えさせられるこの頃である。「労働情報」編集部という全国的戦闘的労働運動の情報が集まる場において諸党派を外から観察できる立場にいる私は、かつてプロント(共産主義者同盟)に参加していたので、プロント系の諸派については一定の親近感をもってその

現在に対して様々な感想や意見を持ち、個人的に話してきた。その内容は、組織的責任を問われぬ軽さがある。しかし、歴史的危機を迎えた資本主義下の階級闘争の命運が前衛党の建設と不可分であるとの信念に基づいて私は語ってきたつもりだ。諸党派をめぐって失ってきたこととすべきに歴史的といつていい事実ではなからうか。横断左翼論はこの事実を背景に出されて

綱領について

一次プロント(五八年六〇年)と二次プロント(六六年六九年)は、綱領を作らず、短期間のうちに分裂した。二次プロントの綱領として綱領に基づく党建設がめざされたのは理由のあることだ。一次プロントの場合、革共同からの批判が主力で主要部分がそこに加盟していった(すなわち革共同第三次分裂)中核派と革マル派に結果したが、二次プロ

政府は二八日の閣議決定として、「通り魔殺人事件」などを口実として「保安処分」を導入し「刑法改正」策動を一段と強め、来春にも国会に上程する予定である。

刑法改「正」

保安処分新設阻止!

来春国会に上程策動に反撃を

政府は二八日の閣議決定として、「通り魔殺人事件」などを口実として「保安処分」を導入し「刑法改正」策動を一段と強め、来春にも国会に上程する予定である。

このように今回の刑法改「正」は「保安処分」の全面導入は、一方で「精神障害者」差別をあらわにしながら、いやそれ以上にその抹殺を意図しながら「社会秩序の維持」のためというブルジョア社会の論理を全面に押し出す

労働者の物象化という疎外の自覚をバネにした主体性の確立をさらに経済的矛盾の分析に発展させた、より科学的階級闘争理論であった。革共同やプロントの小ブル急進主義の基礎にある主観主義を克服する重要な契機をこの批判が与えてくれる。こうした成果を基礎に、ロシア社会民主労働党ボルシェビキ綱領の原則部分を復活させるプロント系各派の作業を積極的に評価している。

「労戦統」攻撃に総評・社会党は解体的危機を迎えている。共産党は統一労働戦線を結成して「階級的」労働運動の旗を勇ましく掲げて闘っている。「革命的」とか「階級的」の修飾だけの労働運動に新左翼がとどまるべきではないのだ。階級的労働運動の防衛と発展なくして八〇年代の危機的状況の勝利はありえないからである。

統一戦線と労働組合

二次プロントの末期(六九年)に革共同主義とプロント主義の止揚が語られたことがある。革共同の綱領主義とプロントの大衆運動主義の対立が、綱領が現実の階級闘争の指導基準にならねばならないということだ。革マル派のように階級闘争で日和見主義に陥っていても、革命的マルクス主義の学習で組織を温存する党派が労働者階級の階級闘争の指導基準にならねばならない。綱領は現実の階級闘争によって検証され、発展されねばならない(理論と実践の党を媒介とした結合)。

七〇年代は新左翼の分裂の時代であったことに規定されて、全国的階級闘争の不毛の時代であった。七三年石油危機、七五年ベトナム解放を契機に戦後の相対的安定期が終り、階級矛盾の根本的な成熟が体制の全側面で見られ始めている。そこではあらゆる矛盾は、政治的(階級闘争)の勝敗をもって結着されねばならない。資本主義の墓場人である労働者階級が政治闘争

同盟出版物紹介

行政大合理化と右翼労働再編に抗する闘いの途上にある。本パンフを発行された同志の奮闘に最大限の敬意を表します。誠に勝手ですが、パンフの具体的な中味については、やはり読者に直接に手にとりて確かめたいと願っています。私の意見を記して紹介にかたいたいと思います。意見というよりは、的をえさない注文という方が正確でしょう。

本主義の賃金奴隷制からの解放の要求を、戦争準備に向かう日帝プロレタリア階級独裁の自治体職場における搾取、抑圧の強化の政治的暴露と結びつけて骨太に主張すべきではないでしょうか?

現在も例えば天皇の行き先々々すでに警察権力は予防拘禁に等しい行動を行っていることをより全面的にせんとするものである。これこそ、現在プロレタリア社会がその不可避の進行として腐朽化しつつある事態、帝国主義戦争の遂行のため、プロレタリア階級にもとづく「反社会的分子」の掃蕩をねらった反動的立法の骨子であるといえる。

すでに私たちの間では自治体労働者の政治的・経済的地位についての議論が交わされています。その結論は細目に至るまで仕上げられているとはいえないが、おおよそ以下のような結論におちついているのではないのでしょうか? いわゆる自治体労働者の特殊性とは、もっぱらブルジョア階級独裁の国家権力が、その維持防衛のために、法的制度的な手段を構じてつくり出す政治的地位に起因するものであり、従って自治体労働者は、自らの生活状態の維持改善の闘いの中で、不可分にこうした自らの特殊性をもたらし国家権力の支配の手段と闘うことが必要であり、そのことを通じて、労働者階級の一部隊として資本家階級との闘争を構成する。この見地を十分に展開することで、経済

同盟神奈川委員会発行・パンフ

『自治体労働運動の階級的再生に向けて』

—横浜市従昼窓反対闘争の教訓から—

早速はじめましょう。本文の第一は、パンフの宣伝・煽動の内容に関するものです。いま少し、自治体労働者の資

安粉砕・改憲阻止闘争の発展のために

- I 安保強化・改憲—軍事情況の悪化—労働者階級の階級闘争
- II 単一党創建の事業を、八〇年代安保シリーズ
- III 社会党の安保政策批判
- IV (寄稿) 日本安保体制の主体の確立
- V 左翼の全国結果と

発行/赤流社 定価/三百円

反原発闘争と労働者階級の任務

③

現代修正主義を粉碎し 反原発労働運動と社会主義の結合を

大村昭彦

反戦反安保闘争の前進にむけて(下)



前号で述べたように、日帝の総合安保構想—原子力開発に
対し、反戦反安保・右翼的「労
戦統一」粉砕の闘いの重要な一
環として、反原発労働運動がす
えられ、社会主義との結合に向
け前進することは、きわめて緊
要な課題である。そしてこのこ
とは、機械的生産力主義の観点
から原発を容認する日共、協会
などの現代修正主義や、その随
伴者マル労働などを徹底して批
判しつづけることを不可避とし
て、

本原子力開発が完全に対米従
属のものにしばりつけられてい
るため、燃料、技術面での自主
性や、労働者、周辺住民の安全
の確保などの点で重大な欠陥を
もっています。また軍事利用の
危険性もあります。『暮らしの
なかのエネルギー危機』新日本
新書。こうして諸悪の根源を
「対米従属」におき、これに対
し「石油、石炭、電力、ガス、
原子力などのおもなエネルギー
産業の大企業を国有化し、民主
的に管理、運営される総合エネ
ルギー公社に統合」することに
より、「自主的」エネルギー政策
が展開される。しかもこのエネ
ルギー公社たるや、「発達した資
本主義国では、国有化や公社化
は常識」といった類のものであ
る。

すなわち、資本主義・帝国主
義の枠内で、権力問題、生産手
段の所有の問題には一切手をふ
れずして、民主化改良を吹聴
する徹頭徹尾反動的なしるもの
である。
他方、日共に対し、一見、階
級性を鮮明にしているかに見え
る協会向坂派はどうだろうか。
彼らは次のように述べる。今日
の原発は、原子炉の資本主義的
利用、それも独占資本主義的利
用に他ならない。独占資本の
原子炉の使用には絶対反対する
のゆえである(『エネルギー
のゆえ』大和書房)。しかし
「将来の日本に別な利用形態が
ありうるとすれば、それは原子
炉の社会主義的利用にほかなら
ない。この社会主義的利用のモ
デルがソ連であり、ソ連が、も
つと、

開発は安全になるといって、きわ
よる軍事費の根本的削減をもち
とることができぬならば、核融
合開発をふくめ原子力の平和利
用やミサイルに象徴されるオー
トメーション技術の平和利用等
をテコとして、共産主義段階へ
の接近を大幅に短縮されるはず
である」との、生産力主義から
するソ連賛美でうずめつづき
れている。
さらにマル労働は、もつと簡
潔に「労働者が望む未来は、原
子力の(否)すべての生産力や
科学の発達(の)危険の根源
となつてはいる。危険の根源
の支配を打倒し、豊かな生産
力を手の中に社会主義を建設
することである。マル労働は原
子力エネルギーの歴史的・革命
的意義を断絶して承認し、そ
れがなすべき社会主義の第一
的重要な条件をもつ物質的条件
であると宣言する(『科学的共
産主義』53号)と述べている。
日共・協会からマル労働に共
通しているのは、民主的に、あ
るいは社会主義になれば原子力
の

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

私人民戦線
の価値は
フランス共産党がプロレタリア
の戦術を放棄して、アメリカ共産党の失
敗を例とするので、実際上、
CGTUのCGTへの解消を擁
護している。私の批判の第二に
対しては、「民主連合綱領」は
対しては、「民主連合綱領」は
階級独裁・社会主義革命の宣言
・煽動を放棄し、経済闘争・民
主主義闘争の擁護にのみこみ
改良主義、議会主義に陥ってい
たこと。
批判の第一は、プロレタリア
階級独裁・社会主義革命の宣言
・煽動を放棄し、経済闘争・民
主主義闘争の擁護にのみこみ
改良主義、議会主義に陥ってい
たこと。
批判の第二は、労働組合運動
の階級的戦術的統一の闘いを放
棄し、CGTUをCGTへ解消
したこと。
批判の第三は、「民主主義綱
領」にもとづく民主主義統一戦
線の下に、労働者階級の階級的
独自性と全人民的指導性を解体
していったこと。
他方、飯田氏はフランス人民
戦線を全面的に正しなかったと見
ている(『4号論文を読んで』欄)
具体的には、私の批判の第一
に対して、プロレタリア階級独
裁・社会主義革命を要求するべ
きでなかったと反論し、もつと
中小資本家層の同盟を擁護する

このように、私と飯田氏の評
価は百八十度異なる。飯田氏
は、何故か、プロレタリア
階級独裁・社会主義革命の宣言
・煽動の放棄を擁護し、民主主
義闘争・経済闘争の改良闘争へ
対する考えである。
氏は、社会主義革命の主体で
ある労働者階級の革命的な力
が小さく弱く、プロレタリア
階級独裁は社会主義の実現を
目的にしている。したがって、
ブルジョア国家の民主主義の否
定に反対して民主主義の実現を
要求するだけではだめなのであ
る。資本主義に反対し、社会主
義革命の要求を組織せねば労働
者階級をブルジョア国家権力打
倒・プロレタリア階級独裁樹立

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

飯田氏に反論する(『旗』四二号)

天野聖

戦術思想の一致を

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

機械的生産力主義の克服を

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

「社会的な力、つまり分業に
よつて条件づけられる種々の個
人の協働によつて生ずる幾倍に
もなつた生産力、これら諸個
人には、その協働そのものが自
由意志的ではなく、自然成長的
であるため、かれら自身の結合
された力としてあらわれ、
むしろなにか疎遠な、かわられ
外に立つ強制力としてあらわれ
る(『ドイツ・イデオロギー』)
この外化した強制力、一連の局面
に

同盟の出版物

- ★政治理論誌 **長征**
- ★創刊号 結成宣言、綱領草案、規約、第一回大会政治報告、七九年十月、六〇〇円
- ★第二号 第二回大会政治報告、女性解放に関するテーゼ、ソ連の社会帝国主義への変質と現代の諸特徴、今日の社会主義中国の外交・国内路線について、蜂火派、戦旗、共産同批判、八一年二月、一、二〇〇円
- ★革命的な反戦闘争を構築するために 八〇年六月、四〇〇円
- ★資料・論文集 **安保粉砕・改憲阻止闘争の発展のために** 八一年七月、三〇〇円
- ★共産同神奈川県委員会 **自治体労働運動の階級的再生に向けて** 横浜市役所労働組合の教訓から 八一年七月、一〇〇円
- ★共産同東京都委員会 **都区職労働運動の革命的再生を!** シリーズNo.1 八〇年九月、三〇〇円